

製品名: p18 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15582**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、ネズミ、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	18kDa

抗原情報

遺伝子名	CDKN2C
別名	CDKN2C; CDKN6; Cyclin-dependent kinase 4 inhibitor C; Cyclin-dependent kinase 6 inhibitor; p18-INK4c; p18-INK6
遺伝子 ID	1031.0
SwissProt ID	P42773
免疫原	抗血清はヒト p18 INK 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 111-160

背景

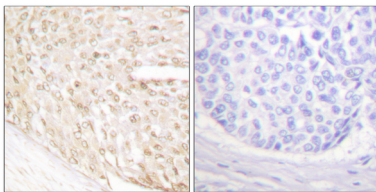
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、サイクリン依存性キナーゼ阻害因子 INK4 ファミリーのメンバーです。このタンパク

質は CDK4 または CDK6 と相互作用し、CDK キナーゼの活性化を阻害することで、細胞周期 G1 の進行を制御する細胞増殖調節因子として機能することが示されています。この遺伝子の異所性発現は、野生型 RB1 機能の存在と相関すると思われる方法でヒト細胞の増殖を抑制することが示されました。ノックアウトマウスを用いた研究では、この遺伝子が精子形成の制御と腫瘍形成の抑制に役割を果たしていることが示唆されました。この遺伝子には、同一タンパク質をコードする 2 つの選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患：CDKN2C の欠陥は腫瘍形成に関与しています。、機能：CDK6 と強く相互作用し、CDK4 とは弱く相互作用します。内因性網膜芽細胞腫タンパク質 RB に依存して細胞の成長と増殖を阻害する。、類似性：CDKN2 サイクリン依存性キナーゼ阻害薬ファミリーに属する。、類似性：4 つの ANK リピートを含む。、サブユニット：p18 と CDK6 のヘテロ二量体。、組織特異性：骨格筋に最も多く存在する。脾臓と心臓にも存在する。、

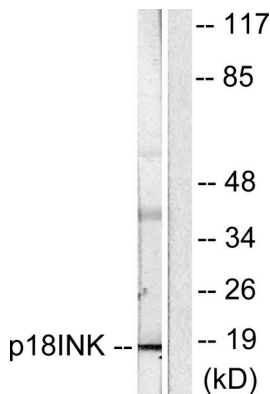
研究分野

細胞周期 G1S;細胞周期 G2M_DNA;

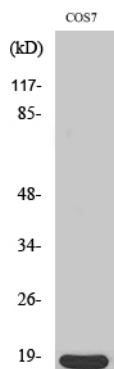
画像データ



p18 INK 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



p18 INK 抗体を用いた COS7 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



p18 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析